

スポーツ振興の強化ポイント(案)

地域における子どものスポーツ環境づくり

1 現状

- 小学5年生、中学校2年生ともに、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツが好きな子ども」の割合は全国平均より低い。
- 高知県における0歳から19歳までの人口は、2020年の106,030人の推測に対し、10年後には86,776人で、現状より約2割の減少が見込まれ、さらに、20年後は72,015人と推測され、現状より約3割減と見込まれている。
- 中学校の運動部活動の状況は、部員数は平成28年と比較し約12%減少し、高知市以外の地域の部員数が、平成28年と比較し、約18%（1,038人）減少している。
- 障害者スポーツの団体・チームは高知市に集中している。

2 課題

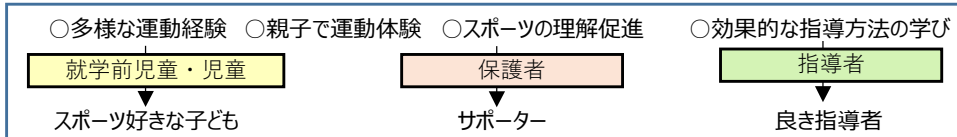
- スポーツの裾野の拡大や、児童・生徒のスポーツ実施につながる取り組みが必要。
- 人口減等により、運動部活動やスポーツ少年団などに所属する子どもが少なくなってきており、今後の活動への影響が懸念される。
- 高知市以外では特に団体競技において部活動数の減少が見られる。
- 障害者が活動できるチームや団体は、高知市周辺に集中しており、障害者が身近な地域でスポーツ活動ができる環境が十分でない。

3 今後の取り組みの方向性

■ スポーツの裾野拡大に向けた取組

① 運動やスポーツが好きな子どもを増やす取組の充実

- 親子で参加できるスポーツ機会の拡大
- 興味を持って運動やスポーツを継続できる子どもを増やす取組



■ 子どものスポーツ環境の充実に向けた取組への支援

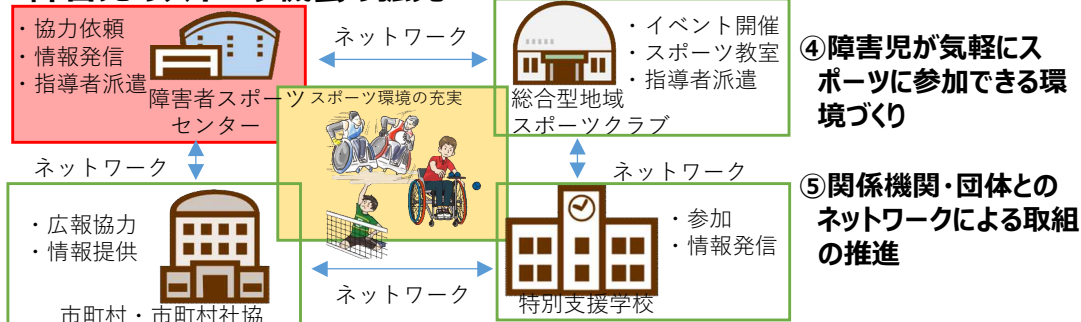
② 児童・生徒のスポーツの空白を埋めるための環境づくり

- スポーツの空白を埋める受け皿として市町村や地域の関係団体と連携した環境づくり

③ 運動部活動の充実・継続ができる環境づくり

- 学校や地域の実情を踏まえ、市町村内や市町村の枠を越えて複数の学校の運動部と一緒に活動する合同部活動の推進
- 地域のスポーツ指導者、スポーツ推進委員、生徒の保護者等の参画や協力を得て、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、クラブチームなどが担う、地域の活動として行われる部活動の推進
- 高等学校運動部活動の充実

■ 障害児のスポーツ機会の拡充



④ 障害児が気軽にスポーツに参加できる環境づくり

⑤ 関係機関・団体とのネットワークによる取組の推進

4 令和3年度の取り組み

■ スポーツの裾野拡大に向けた取組

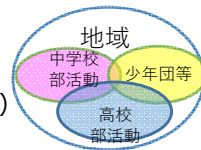
① 運動やスポーツが好きな子どもを増やす取組の充実

- 親子で参加できるスポーツイベントの開催
(就学前児童・小学校低学年対象のマッチングプログラム、スポーツJAMフェスタ)
- 適性に応じたスポーツに出会う機会の提供
(小学校3～6年生対象のマッチングプログラム、高知くろしおキッズ)
- 指導者等研修会の開催
(高知県スポーツ科学センター・(公財)高知県スポーツ協会)

■ 子どものスポーツ環境の充実に向けた取組への支援

② 児童・生徒のスポーツの空白を埋めるための環境づくり

- ◇市町村、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、競技団体等との現状や課題の共有及び環境づくりに向けた取組への支援を行う。
- 市町村関係者等と課題の共有（市町村担当者会他）
- 地域の実情に応じた取組の方向性の確認
- 取組への支援（指導者とチームとのマッチング、他地域の取組事例の紹介等）



③ 運動部活動の充実・継続ができる環境づくり

- 合同部活動の実施に向けた取組の推進
- 地域部活動モデル事業の実施と実現に向けた課題の整理
- 高等学校の振興に向けた学校運動部活動の取組への支援

■ 障害児のスポーツ機会の拡充

★障害者スポーツセンターのコーディネート機能強化

○既存の活動の充実に向けた支援

○関係者と連携した新たなスポーツ環境づくり

○障害当事者とスポーツ活動のマッチング

- ④ 障害児が気軽にスポーツに参加できる環境づくり
 - 健全者と障害児・者が一緒に参加できる大会の開催及び普及
 - 特別支援学校の運動部活動における外部指導者の活用促進
 - 既存のスポーツ団体における障害児の受入促進
- ⑤ 関係機関・団体とのネットワークによる取組の推進
 - 障害者スポーツセンターの機能を活用した特別支援学校、市町村行政、福祉関連団体のネットワーク強化
 - 関係団体の連携強化によるスポーツ機会の拡充

本県の特徴を生かしたスポーツツーリズムの活性化

1 現状

<戦略的なアマチュア合宿等の誘致>

- アマチュアスポーツ合宿・大会による県外からの入込客数は増加傾向にあるが、スポーツ関連イベント全体の約23%にとどまっている。
(H31年・R元年実績：全体96,783人 アマチュアスポーツ合宿・大会22,545人)
- 本県での合宿はサッカー、野球、テニス、陸上、バスケが多く全体の75%。大学生の受入が54%と多い。(H31年・R元年実績)
- 昨年、合宿に訪れた団体の約7割が関西圏からであるが、コロナ感染症の影響でR2年の合宿数は昨年に比べて大きく減少している。

<高知県の特色ある自然環境を生かしたスポーツツーリズム>

- 自然環境を生かしたスポーツツーリズムの取組が一部の競技（サイクリング等）に限定されている。

2 課題

<戦略的なアマチュア合宿等の誘致>

- アマチュアスポーツの合宿や大会の誘致については、実施団体の競技種目や属性に偏りが見られ、受入増加に向けて合宿の目的や競技特性に応じた誘致活動が必要。
- コロナ禍において、アマチュアスポーツ合宿・大会による入込客数をさらに増加させるためには、宿泊を伴う合宿の実施が期待できる地域を中心とした誘致活動が必要。

<高知県の特色ある自然環境を生かしたスポーツツーリズム>

- 本県の自然環境を生かしたスポーツの楽しみ方やイベントについて、ツーリスト向けに地域、季節、種目等が可視化・周知されていない。
- 周遊観光やリピーター確保に向けた、県内に点在する地域の特色あるスポーツイベントやアクティビティを集約した情報発信が出来ていない。

3 今後の取り組み内容

1 戦略的なアマチュアスポーツ合宿等の誘致強化

関係者と連携して、目的に応じた効果的な誘致活動を行うとともに、関西との経済連携強化を通じた誘致を戦略的に行うことにより、県外からの入込客数の増加を図る。

(1) ターゲットを絞った誘致

- ①高知県の強みを生かした合宿誘致
 - ・市町村等と連携し、本県の特徴的な施設や自然環境等を活用した合宿誘致（カヌー、ゴルフ、レスリング等）
- ②強豪校やトップチームとの実践練習につなげる合宿誘致
 - ・県内の競技団体のキーパーソンと連携し、中高生、大学の強豪校や社会人のトップチームを招聘する合宿誘致
- ③交流を目的とした合宿誘致及び大会の参加促進
 - ・誘致実績のある民間団体と連携し、交流を目的とした合宿誘致や既存の小学生の交流大会等への県外からの参加を促進

(2) 関西圏を中心とした誘致

- ・関西の旅行会社や公益財団法人大阪観光局等と連携した関西周辺からの合宿等の誘致をはじめ、中四国などマイクロツーリズム活性化を意識した誘致活動



2 高知県の特色ある自然環境を生かしたスポーツツーリズムの更なる活性化

リョーマの休日キャンペーンと連携し、本県の自然環境を生かしたスポーツアクティビティの活性化に向け、環境整備やプロモーションを推進する。

(1) 地域の特色を生かしたスポーツツーリズムの拡充

- ・県内スポーツツーリズムの資源の掘り起こし・磨き上げ
- ・県内に点在する地域の特色あるスポーツツーリズムのターゲットの明確化とパッケージ化、プロモーション展開方法の磨き上げ
- ・スポーツと地域の食・文化等を融合させた新たな旅行プランの検討・創出

(2) 市町村等が新たに開催する自然環境を生かしたスポーツ大会への開催支援

- ・高知県観光コンベンション協会の自然環境を生かしたスポーツ大会支援事業助成金を活用した大会開催支援

